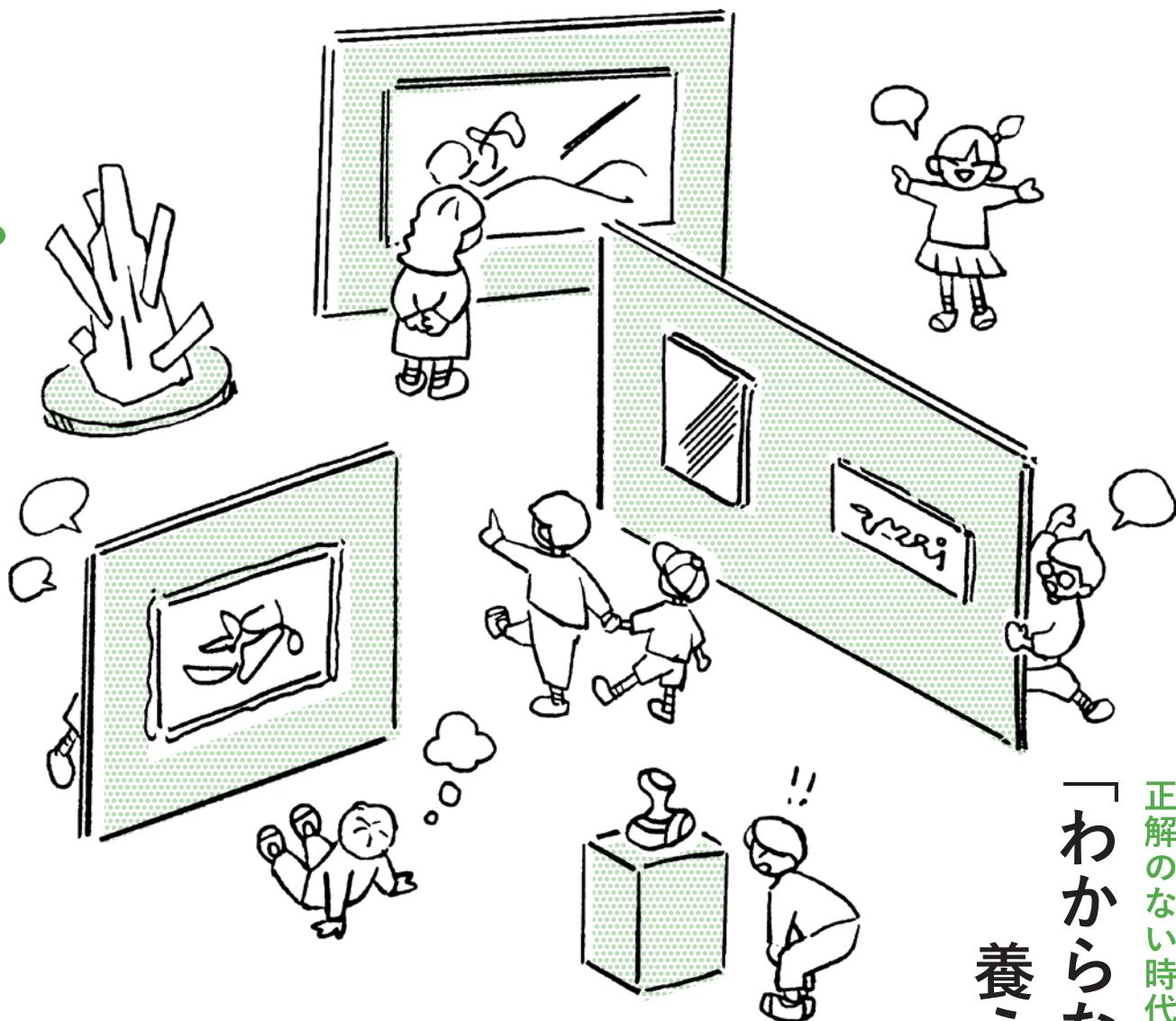


2026

デ リ バ リ ー 展 覧 会



開催校募集

【応募対象】栃木県、群馬県、茨城県、埼玉県、神奈川県、千葉県、
山梨県、静岡県内の小・中学校

募集
期間

2025

11.15(土) → 2026 3.31(火)

開催
期間

2026

10.1(木) → 2027 3.31(水)

開催
費用

無償

正解のない時代を生きる子どもたちにも届ける
「わからない」に向き合う力を
養う現代アートプログラム

1 タグチ現代芸術基金の「デリバリー展覧会」とは？

世界的に活躍するアーティストの作品が多く含まれる国内屈指の現代アートコレクション「タグチアートコレクション」を活用して、子どもたちに良質な現代アート作品を鑑賞する機会を提供するプロジェクトです。

Point

- 01 学校まで作品をお届け
- 02 学校の費用負担なし
- 03 展示設営やプログラムの実施は専門スタッフを派遣
- 04 対話をベースとした鑑賞プログラム



タグチアートコレクション

ミスミグループ創業者の田口弘が収集した、世界各地の現代アート作品およそ750点（2025年10月現在）からなるアートコレクションです。

特定の展示会場はあえて所有せず、特に首都圏以外の現代アートを見る機会の少ない地域において、世界で活躍する同時代の作家たちの作品を鑑賞する機会を提供する活動を行っています。2013年より、長女の美和が運営に参画し、展覧会の開催とコレクションの拡充に努めています。2020年にタグチ現代芸術基金を設立、より公益性の高い活動を開始しています。

2 デリバリー展覧会が目指すこと

子どもたちに

鑑賞教育の重要性が謳われる昨今ですが、美術館に学校のプログラムで出かけるのはいろいろな理由で難しいことも多いと聞いています。ならば、学校に作品がやってくる「デリバリー展覧会」はいかがでしょうか。

今までのデリバリー展覧会では、ほとんどの子どもが現代アートに触れるのは初めて。最初の体験がより良いものになるよう、当基金のデリバリー展覧会では「作品の質」と「体験の質」にこだわっています。美術館の展覧会でも展示されるような一流の作家による名品を使用し、単に作品を並べるだけでなく、丁寧な鑑賞プログラムを伴うことによって、子どもたちにとって楽しく意味のある鑑賞体験となるよう様々な工夫をしています。

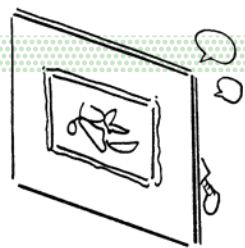


現代アートは、特別な予備知識がなくても子どもたち自身の感性で鑑賞することが可能です。子どもたちの純粹で身構えない目は、1度の体験であっても、大人よりずっとたくさんのことを発見しています。子ども時代にアートに接する価値は無限大です。

田口美和（タグチアートコレクション 共同代表）

「発見」と「感動」を

3 開催決定から実施の流れ



News

オンライン説明会
開催予定！

日程などの詳細は12月以降にタグチアートコレクション
公式HP・SNSにてお知らせいたします。

公式HP <https://taguchiartcollection.jp/>
Instagram @taguchi_artcollection
X (Twitter) @Taguhi_Art



公式HPはこちら

10-3月 デリバリー展覧会実施

前日 開催日前日の夕方から会場準備（作品以外の展示パネルなどの搬入・設置）
当日 作品搬入・展示作業・鑑賞時間 / 撤収作業

実施後 感想の共有とアンケート

実施後、当基金事務局が作成した感想シートに子どもたちの感想をご記入いただき、ご共有いただいております。先生方へも簡単なアンケートへのご協力をお願いしております。

実施風景写真の確認

当基金事務局で撮影させていただいた実施風景写真をご共有し、報告書等での使用が可能か確認をお願いしております。



4 現代アートから「学び」をひろげる 体験のめあて・子どもたちの感想



多様な表現や視点：

自己と他者への理解を深める

ジョシュ・スミスは沖縄生まれで日本にルーツを持ち、エネルギーに満ち溢れた作品を数々生み出してきました。亀の甲羅に描かれた模様や色使いから彼のアイデンティティやどんなところで暮らしているのかなど、様々な想像が膨らみます。

ジョシュ・スミス《無題》2019
Courtesy the artist and Taguchi Art Collection, © Josh Smith



細かくて
目が離せなくなった。
少し悲しくなるような
気もした。
（中学1年生）

捨ててしまう袋、
とっておく袋、
人間はどんな価値観で生きて
いるのか考えさせられる
作品でした。
（中学1年生）



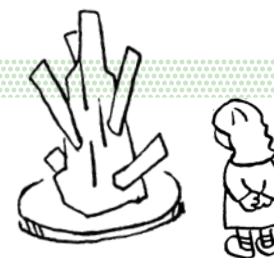
物が語るストーリー：
社会への関心を高める

照屋勇賢は、私たちが気付かず接している日常生活の問題を、鮮やかな世界観で作品化します。

紙袋に細かな切り込みを入れ、中に木を作り出す本作は、日々大量に消費されていく紙の原料である木の記憶を呼び起こし、大量消費社会へのメッセージを鮮やかに表現した作品です。



照屋 勇賢《告知・森（ディファニー）》2009
© Yuken Teruya Studio



Q & A 先生から寄せられるご質問

Q1 現代アートの知識がなくても大丈夫ですか？

もちろん大丈夫です！対話型鑑賞や作品の説明などは当基金事務局が派遣するアートコミュニケーターが主導で行います。ご安心ください。

Q2 どんなことを打ち合わせしますか？

開催希望日や参加人数、実施時間、希望作品などをお聞きしながら、具体的なプログラムへとつなげていきます。学校の特色や日頃のこどもたちのことなどもお聞きしています。

Q3 下見では何を確認しますか？

展覧会に適した場所を実際に下見します。作品輸送トラックの留置場所や搬入経路、作品の空箱を一時的に保管できる倉庫や空き教室などを確認いたします。

Q4 お手伝いは必要ですか？

基本的に作品の展示準備などは専門のスタッフが行いますが、仮設パネルなどの搬入と搬出の際には、できる範囲で先生方にご協力いただけると大変助かります！

Q5 学校側で用意するものはありますか？

設営に必要な脚立と鑑賞中にスタッフが使用するためのマイクのご用意をお願いしています。また、映像作品を展示する場合には、大型モニターやプロジェクター、延長コードなどのご用意もお願いしています。

デリバリー展覧会・目的（「デリバリー」展覧会を開催する目的や、企画者・出品者が何を認識していたか）	
デリバリー展覧会をどこで知りましたか？ （具体的に記載してください。例：〇〇のHP、新聞等）	
ご不明点・ご質問などはお気軽にお問い合わせください。（info@taguchiartcollection.jp）	